

## 伝統薬物と健康食品

国立医薬品食品衛生研究所 筑波薬用植物栽培試験場 関田節子

つい最近、中国製やせ薬による深刻な健康障害が発表されました。その最中にある週刊誌が「やせる漢方薬」の記事を載せていたので急いで購入したところ、結論は「飲むだけではなく効果を期待するなら運動が不可欠」とされていて納得しました。

日本人の平均寿命は、男性は77才、女性は84才になり、今や世界一の長寿国になりました。その理由は一つではなく、乳幼児死亡率の激減や種々の病気に対する医薬が充実したこと、衛生状態の改善など生活環境が整えられたこと、食生活が豊富になり栄養を十分に摂れること、これらの知識を広める教育が行き渡ったこと、等々誰もがいくつもの要因を数え上げられるでしょう。

けれども、これに伴うマイナス面も生じていて、健康に関することに限っても、生活習慣病と呼ばれるようになった糖尿病、高血圧、心臓病、脳卒中、高脂血症、腎臓病が問題となっています。このような背景から、健康への関心が深まり、特に疾病の「予防」に重点が置かれ、薬を食事に取り込んだ「薬膳料理」の普及や食べ物の機能を疾病の予防に役立てようとする「特定保健用食品」の誕生など様々な動きがあります。マスメディアの動きも、可能な限り正確に知識の普及を図るものから、特定の品目のブームを巻き起こすものまで多様で、私達は氾濫する情報の中からいかにして本当に自分に必要な情報を選びだすかが重要な時代になっています。

医療体系を「伝統医療」と「新しい医療」に2分した時、それぞれの意味するものはその国の状況によって大きく異なります。日本を始め多くの国は、「伝統医療」は天然薬物や鍼灸による東洋医学を指し、「新しい医療」は西洋医学に立脚した最新の医療であると認識しているでしょう。ところがアメリカにあっては全く逆で、「伝統医療」とは近代医学であり、ここで用いる治療薬は合成医薬品・バイオ医薬品であって、「新しい医療」というと鍼灸・天然薬物を想起すると言われています。表現はどうかであっても、薬用植物・生薬を主たる治療薬としている国は、地球上の80%を占めています。医薬品の供給を受けられず、感染症に悩んでいる国には、遺伝子組み換えでワクチン等を作らせた植物医薬品が使われるようになっていきます。一方、近代医学の道を歩んできた国々も全く薬用植物を捨て去ったわけではなく、医薬品の規格書である薬局方の中に植物を基原とする生薬の利用の様子を伺うことができます。漢方薬、中成薬、韓薬という呼称で日本、中国、韓国がそれぞれの国の状況に応じてこれらの天然物を使いこなしてきたのと同様に、ヨーロッパ諸国はハーブとしてあるものは薬に、一部のものは共通に、それ以外のもは食べ物に用いています。最近アメリカでもこれらの天然物を健康維持に利用しようとの試みが始まり、薬と食べ物の中にサプリメントを位置づけて普及拡大を図っていますが、一部では利用方法を誤ったことによる副作用が明らかになっています。

IT の普及により私達は自国にいながらにして海外の製品を購入することが可能になりましたが、  
効果効果と同様に安全性と品質の確かさについての情報にも目を向ける努力が必要です。

国や地方自治体、大学の薬用植物園ではそれぞれの園で特徴ある植物を植栽していますので、  
目で楽しみながら、歴史的な使われ方や最近明らかになった情報などを学ぶことができます。大い  
に活用して下さい。